

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【めざす学校像】

校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校  
将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校  
生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

## 【生徒に育みたい力】

強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性  
確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）  
生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）  
豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）  
社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

## (1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

## ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領について令和4年度からの実施に向け教育課程の検討を進め、令和2年度中に教育課程を編成する。また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす「高津授業メソッド」をさらに深化させる。

\* 生徒向け授業アンケートの項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（R1：3.32 / 4点満点）を令和2年度以降も3.2以上で維持する

## イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

\* 難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生 / H29:63人、H30:68人（東京大を含む）、R1:75人）を、令和2年度までに80人以上とし、一層の増加に努める

\* 国公立大学への現役生の合格者数（H29:132人、H30:130人、R1:139人）を、令和4年度まで130人以上で維持し続ける

## ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

\* 12月実施予定のGTECにおいて、CEFR B1（R1:122人）を令和3年度まで100人以上で維持し続ける

\* KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を令和4年度まで継続し、KITECを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合（R1:98%）を98%以上で維持し続ける

## (2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

## ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系・文理融合）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

\* 2年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（H29:450人、H30:720人、R1:約720人）を、令和4年度まで700人以上で維持する

## イ 創造探究事業（大学や企業・研究機関との連携）の内容の充実

\* 文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数（H29:1717人、H30:1543人、R1:約2122人）を、令和4年度まで1,500人以上で維持し続ける

## ウ 海外の科学先進校等との交流の推進

海外の科学先進校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

\* 交流日数（H29:12日、H30:5日、R1年度:8日）について、令和4年度まで4日以上で維持し続ける

## (3) 進路指導をさらに充実させる

## ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

\* 1・2年生とも訪問先（1年生 H29:63カ所、H30:63カ所、R1:63カ所、2年生 H29:52カ所、H30:49カ所、R1:52カ所）を、令和4年度まで各50カ所以上、生徒満足度（H29:95%、H30:95%、R1:96%）を90%以上で維持し続ける

## イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

\* 学校教育自己診断の進路指導への満足度（生徒 H29:83%、H30:80%、R1:85%・保護者 H29:80%、H30:81%、R1:81%）を、令和4年度までともに80%以上で維持する

## 2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

## (1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

\* 学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（生徒 H29:85%、H30:82%、R1:85% 保護者 H29:83%、H30:82%、R1:84%）を、令和4年度までに、ともに85%以上に引きあげる

\* 部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H29:100%、H30:100%、R1:100%）を、令和4年度まで90%以上で維持し続ける

## (2) 規律・規範意識の向上

\* 年間の遅刻者総数（H29:2,472件、H30:2,041件、R1:2,128件）を、令和4年度まで2,000件以下で維持し続ける

## (3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

\* 部活動加入率（H29:86%、H30:86%、R1:86%）を、令和4年度まで85%以上で維持し、一層の増加に努める

\* 生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H29:66%、H30:64%、R1:68%）を、令和3年度までに70%以上に引きあげる

## (4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

\* 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く / H29:83%、H30:84%、R1:88%）を、令和4年度まで80%以上で維持し、一層の向上に努める

## 3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

## (1) 教科指導力の向上

\* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H29:3.24、H30:3.23、R1:3.34 / 4点満点）を、令和4年度まで3.2以上で維持し続ける

## (2) 研修の充実

\* 教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H29:85%、H30:90%、R1:79%）を、令和4年度まで80%以上で維持し続ける

## (3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

\* 教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H29:77%、H30:80%、R1:82%）を、令和4年度まで75%以上で維持し続ける

## (4) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

\* 教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H29:54%、H30:80%、R1:81%）を、令和4年度までに75%以上で維持し続ける

## (5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実

\* 生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用に対する満足度 (H29 : 93%、H30 : 90%、R1 : 94%) を、令和4年度まで90%以上で維持し続ける

**(6) 地域に開かれた学校づくりの推進**  
 \* 生徒による社会体験・貢献活動(ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊等)をさらに活性化させる  
 \* 本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。

**(7) 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上**  
 \* 教職員向け学校教育自己診断の教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談についての肯定率(H29 : 85%、H30 : 85%、R1 : 85%)を、令和4年度まで80%以上で維持する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和2年12月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力をふまえて、高い志を高く、進路実現をめざす取組み	(1) 生徒のもつ学力を最大限引き出す ア・魅力ある授業の実施「高津授業メソッド」の深化 イ・英語運用能力(4技能)の向上	(1) ア・新学習指導要領や大学入試改革を見据えて「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立を可能とする「高津授業メソッド」の深化をめざし、担当部署を中心に具体的な取組みを推進する。 イ・1・2年生全員を対象に、GTECを活用して英語運用能力の向上を図る。 KITECを実施し英語会話能力の向上をめざす。 ・国際交流センター留学生との定期的な交流を新規に計画し実施する。	(1) ア・教員向け学校教育自己診断の「高津授業メソッドの推進状況」に関する項目の肯定率(R1 : 90%)を90%以上とする。 イ・12月実施のGTECで、CEFR B1 : 100人以上で維持する(R1 : 122人)。また、KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合を98%以上で維持する。 ・国際交流センター留学生との定期的な交流を実施する。	
	(2) 海外の科学先進校等との交流促進 ア・交流対象校との交流内容の充実 (3) 進路指導をさらに充実させる ア・体験型進路学習の一層の充実	(2) ア・交流対象校と交流内容の充実を図るとともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。 (3) ア・総合的な学習の時間を活用し、1年7月と2年11月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」	(2) ア・交流日数(R1 : 8日)について4日以上で維持し続けるとともに、参加生徒の満足度(R1 : 100%)を90%以上で維持する。 (3) ア・生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度(R1 : 96%)を90%以上で維持する。	
2 豊かな心をはぐくみ、規律・規範の確立	(2) 規律・規範意識の向上 (3) 生徒の自主活動の活性化 (4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実	(2) ・教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む (3) ・記念祭(文化祭・体育祭の一括実施)等の行事に関して、引き続き、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を整理し、新たな伝統創生をさらに進めることで、本校ならではの自治会活動のさらなる活性化を図る。 (4) ・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。	(2) ・遅刻者数(R1 : 2,128件)を2,000件以下にする。 (3) ・行事後の生徒の満足度(文化祭・体育祭の平均 R1 : 97%)を95%以上で維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率(R1 : 68%)を70%以上にする。 (4) ・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(R1 : 88%)保護者の学校への相談に対する満足度(R1 : 86%)を、ともに80%以上で維持する。	

<p>3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>(1)教科指導力の向上</p> <p>(3)ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上</p> <p>(6)地域に開かれた学校づくりの推進</p> <p>(7)安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。</li> <li>・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。</li> </ul> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。</li> </ul> <p>(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒授業アンケート1～9全質問の平均値(R1:3.34)を3.2以上で維持し、さらなる向上に努める。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率(R1:82%)を75%以上で維持する。</li> </ul> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率(R1:97%)を90%以上で維持する。</li> </ul> <p>(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率(R1:85%)を80%以上で維持する。</li> </ul>
----------------------------------	--	---	--